

米づくり情報 (NO. 7)

令和6年8月22日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
8月	1	27.8	30.1	32.5	35.8	24.2	26.0	34.7	12.5	34.9	51.6
	2	27.8	29.4	32.5	33.9	24.2	25.5	38.7	0.0	33.4	57.5
	3	27.5	28.5	32.2	33.7	24.1	24.3	44.0	2.0	30.8	52.1
	4	27.1	29.2	31.7	34.4	23.7	25.6	46.2	22.0	28.9	45.7
	5	26.6	-	31.2	-	23.1	-	46.9	-	28.0	-
	6	26.0	-	30.6	-	22.5	-	55.9	-	32.6	-

【8月1半旬～4半旬の気象概況】

- ・気温は、平年より高い。
- ・降水量は、平年比22%と少ない。
- ・日照時間は平年比161.7%と多日照であった。

2 生育状況 (8月21日)

項目 品種(設置場所)	移植 日	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 東山代町脇野	5/23	本年値	出穂期8月1日				・移植日が早かったため、 平年より4日ほど早い出穂
	5/29	平年値 平年比(差)	出穂期8月5日 -4日				
ヒノヒカリ 松浦町桃川	6/20	本年値 平年値 平年比 (%,差)	97.8 92.8 105	388 412.8 94	12.5 14.2 (-1.7)	32.4 32.4 (±0)	・草丈は、平年よりやや高い ・莖数は、平年よりやや少ない ・葉齢は、平年より少ない ・葉色は平年並

(耕種概要)

- ・夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリの耕種概要は稲作情報 No.4 を参照。

【情報田ウンカ類調査結果 (25株あたり)】 (調査日8月21日)

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
夢しずく	東山代	5/23	0	0	0	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	1	0	0

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（8月20日）

移植日	項	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	目 品種						
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 -2			[気象] 8月13日~8月19日まで ◆平均気温…平年より2.2℃高い(30.5℃) ◆日照時間…長い(平年比140%) ◆降水量…極端に少ない(平年比1%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや高く、「さがびより」は高い。 ◆茎数 全ての品種でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」の主穂葉数は平年並み(主穂葉数:本年13.5、平年13.4)、葉齢は「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+13.6cm、「さがびより」で-2.3cmとなっている。 ◆葉色 「ヒノヒカリ」は濃く、「さがびより」でやや濃い。「ヒヨクモチ」は平年並み。	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	95.7 91.5 105	472 455 104	14.6 14.2 +0.4	36.2 33.3 +2.9	
6月20日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	93.9 85.5 110	460 452 102	14.6 14.4 +0.2	37.4 36.3 +1.1	
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	78.4 74.8 105	580 550 105	15.2 14.7 +0.5	36.0 35.9 +0.1	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「夢しずく」の出穂期は8月15日で平年より2日早かった。 ○ 「ヒノヒカリ」は間もなく出穂期を迎える。葉耳間長から判断すると「さがびより」は10日後(8月30日頃)に出穂期を迎える。 ○ 「ヒヨクモチ」等でコブノメイガの成虫が多く見られ、被害葉も多数見られた。 						

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・ 乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・ 収穫1週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・ 出穂期～穂揃い期を迎えている。
- ・ 穂ばらみ期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように湛水管理を徹底する。
- ・ この時期は強風による蒸散の影響を最も受けやすいため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による葉先の裂傷や剝擦れなどの被害を緩和するよう努める。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- まもなく出穂期を迎える。
- 最も要水量が大きい時期であるため、出穂 10 日後までは湛水状態を保つ。
- 出穂直前の畦畔除草は、カメムシのほ場への侵入を助長し、被害を増加させるおそれがある。畦畔の除草は出穂10日前までの作業とし、出穂直後に畦畔除草は行わない。

《参考》出穂期の平年値と穂肥施用時期の目安

※移植日と出穂期は過去7年間で上限と下限を除いた5年分の平均

品種	移植日	出穂期	幼穂形成期（1mm～15mm） 穂肥施用時期目安
夢しずく	5月31日	8月6日	7月15日～23日
ヒノヒカリ	6月20日	8月26日	8月2日～10日
たんぼの夢	6月17日	8月28日	8月6日～13日

4) 共通

○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	防除適期							
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20
紋枯病	並発生の場合	←→							
	多発生の場合	←→			←→				
穂いもち	並発生の場合			←→					
	多発生の場合			←→		←→			
カメムシ類	並発生の場合							←→	
	多発生の場合					←→		←→	

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

(いもち病)

・伊万里地区では、7月27日に準好適条件が観測された。以降、好適条件は確認されていない。しかしながら、常発地帯ではいもち病の発生が確認されている(8月21日時点)。引き続き注意して圃場を観察する。

BLASTAM情報第9号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年8月13日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	31日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—
	7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15~25℃の範囲外)
- 4 : 準好適条件 (湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
- : 好適条件の出現なし
- ? : 判定不能

農業技術防除センター提供



(ウンカ類)

例年と比較して飛来量が多い。今後の発生状況に注意が必要。

海外飛来性害虫情報第9号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和6年8月13日更新)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県			長崎県				
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラップ (20W蛍光灯)	伊万里市 粘着トラップ (20W 蛍光灯)	白石町 粘着トラップ (20W 蛍光灯)	武雄市 粘着トラップ (20W 蛍光灯)	諫早市 フェロモン トラップA	諫早市 フェロモン トラップB
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4	2
	3日	1	欠測	0	0	0	1	欠測	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	4日	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
	5日	0	0	0	0	0	5	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	6日	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1
	7日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	8日	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠測	2	0
	10日	0	2	0	0	0	1	252	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	11日	0		0	0	0	1		106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0		0	0	0			33	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	13日	0	3	0	0	0	0	933	232	0	0	0	0	0	0	0	欠測	13	0
	14日	0		0	1	0	0		70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0		0	0	0	0		17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	16日	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
	17日	0	0	0	0	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	35	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0
	20日	0	0	0	0	0	4	9	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	17	1
	24日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	25日	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	32	1	32
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	32	3	3
	28日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	5	5	2
	30日	0	0		0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5	0	2	11
	31日	0	0		0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	5	0	2	11
8月	1日		0		0	0		0		0	0	1	3					6	0
	2日		1		0	0		0		0	0	0	1					7	3
	3日		0		0	0		0		1	0	0	0					6	5
	4日		0		0	0		2		0	0	0	0					8	3
	5日		0					0				0	3						
	6日		0					0				2	2						
	7日		0					0				1	0						
	8日		0					0				0	0						
	9日		0					0				0	0						
	10日		0					0				0	2						
	11日		0					0				1	5						
	12日		0					0				0	1						
	13日		0					0				0	5						

農業技術防除センター提供

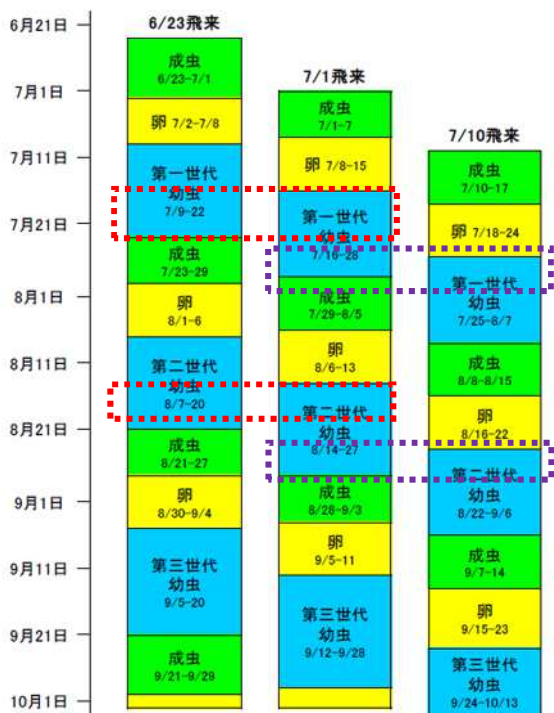


図1 トビロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

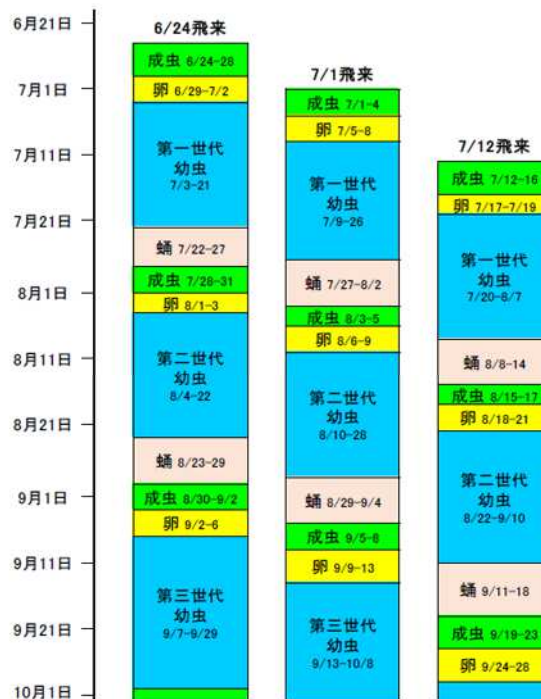


図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

早期移植防除適期・・・7/16~22、8/14~20
 普通期移植防除適期・・・7/25~28、8/22~27

農業技術防除センター提供

- 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	:真横
トビロウカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	:真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	:斜め後ろ

		トビロウカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
幼虫	成虫			
	若齢			
	中齢～老齢			

農業技術防除センター提供

「ほ場の調査」と「本田防除」のポイント

防除にあたっては、トビイロウンカはイネの株元に生息しているので、薬剤が株元まで十分かかるよう、ていねいに散布する。
各時期別のポイントは以下のとおり（普通期水稻の場合）。

7月下旬～8月下旬頃（防除適期の把握と基幹防除）

- 調査：幼虫などの発生状況を調査する。
- 防除：第1または2世代幼虫ふ化揃い期に防除を行う。



8月下旬～9月中旬頃（臨機防除の必要性の判断）

- 調査：生き残ったウンカがいないか調べる。なお、調査日がウンカの卵期間（約7～8日間）と重なった場合、発生を見逃すことになるので、複数回調査する。
- 例えば調査時に、第2世代成虫があちこちに生き残っているのであれば、その10～14日後に第3世代幼虫が多数ふ化してくると予測する。



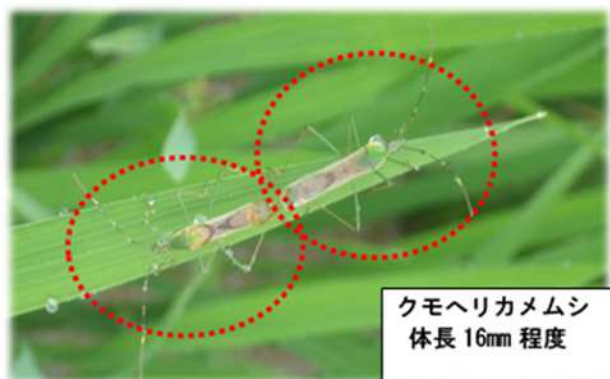
9月上旬～9月下旬頃（臨機防除）

- 確認調査：あらかじめ予測された時期に、第3世代幼虫の発生状況を調べる。
- 防除：幼虫が多数ふ化しているのであれば、早急に臨機防除を行う。対応が遅れると、坪枯れの被害が発生する。

○カメムシ類

- ・ 耕種的防除として、出穂 10 日前までには必ず畦畔の草刈りを終える。出穂後に行うとカメムシ類が圃場に侵入し、被害を助長する。
- ・ 薬剤防除としては、乳熟期（出穂期の約 10 日後）の防除を徹底して、斑点米の被害防止を図る。発生の多い圃場では穂揃い期（出穂期の約 5 日頃）と乳熟期の 2 回防除を実施する。

★ 多発生の目安 ⇒ 20 回のすくいとり調査でカメムシが 5 頭以上の場合



クモヘリカメムシ
体長 16mm 程度



ホソハリカメムシ
体長 11mm 程度

○紋枯病

- ・ 高温年に多発する病気で、前年多発した圃場では、菌核が残り発生しやすい。
- ・ 菌核が水に浮いて移動するため、一般的に水尻付近や風下側に発生しやすい。
- ・ 田回りの際は、株元をよく確認し、発生が見られる場合は防除を行う。

（液剤、粉剤の場合は出穂の 20 日～10 日前が目安）

- ・ 初発は、下部の莖に発生するが、上位に進展し、多発すると、倒伏や充実不足を招く。



令和6年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

